

具体的な取組	実施内容 (計画上の記載)	進捗管理項目	実行 (D)	取組目標に対する評価	成果及び課題	改善 (A)	今後の取組
		人が集まる場所で活動を周知	社会貢献活動を周知するため、イベントへのブース出展を行う。 (3ブース×1回)		これまで出展していたイベントが、コロナの影響により中止となった。	イベントが再開すれば、ブース出展を行う。	ボランティア・NPOセンター
		市町村との連携による情報提供	必要に応じて適宜市町村への情報提供を行う。	× 取組目標どおり取り組めていない		・市町村と連携した情報提供の仕組みの検討。 ・市町村の広報誌等でのNPO活動の広報が行えるよう、県を通じて市町村に依頼。	ボランティア・NPOセンター
② 経済団体等と連携した人材の確保	ボランティア・NPOセンターでは、これまで、企業・NPOパートナーシップ委員会や企業市民セミナーなどを通じて、事業者等に社会貢献活動の情報を提供してきました。 こうした取組に加えて、経済団体等と連携して、より多くの事業者や社員の方に社会貢献活動の取組等を周知することで、社会貢献活動に参加しやすい環境をつくります。	経済団体等を通じた社会貢献活動の周知	・広報パンフレットの作成し、経営団体等を通じて事業者等に社会貢献活動を周知する。 ・ピピネットをリニューアルする。	× 取組目標どおり取り組めていない	・SDGsに向けて取組みが広がるなかで、今後の社会貢献活動の周知の方法を検討する必要がある。	・広報用にパンフレットを作成し、周知等を行っていく。	ボランティア・NPOセンター
③ 教育・研究機関と連携した次世代の担い手育成	ボランティア・NPOセンターは、これまで教育・研究機関向けに、高校生や大学生を対象としたナツボラを実施し、若年層への社会貢献活動の普及に努めてきました。 今後、教育・研究機関(高校や大学など)を通じて、ナツボラを周知することにより、若年層が社会貢献活動に気軽に参加できる気風づくりを行います。	教育・研究機関を通じたナツボラの周知	高校、大学などを通じてナツボラの周知を行い、これまで以上に参加者を増やす。	△ 概ね取組目標どおり	【ボランティア・NPOセンター】 ・県内全高校、県立中学校へナツボラガイドを配布し、ナツボラの周知を図った。 ・ボランティア活動の入り口として、昨年に引き続き参加しやすいセンター独自のプログラムを実施した。 【私学・大学支援課】 ・高知県立大学及び高知工科大学が主催した公開講座、リカレント講座、県民開放授業等に延べ5,341名の受講があった。 【高等学校課】 ・県社会福祉協議会を通じて送られるナツボラの周知について、各校に対して県教委(高等学校課)から生徒への周知をお願いした。		